

●グローバル化時代の医療・検査事情 17

雲南の旅 その7
昭通(ジャオトン)_2016年

いわもと あい きち
岩 本 愛 吉
Aikichi IWAMOTO

今回は、雲南省疾病予防控制中心(雲南 CDC)で講演することになっており、航空券は全て雲南 CDC が手配してくれた。2016 年 8 月 6 日、羽田発午前 7:20 の中国国際航空(エアチャイナ)で中継地の北京に飛んだ。北京首都国際空港は慣れているが、乗り換えとなるとちょっと話が違う。入国審査の後、シャトルでメイン・ビルディング(ターミナル 3C)へ移動し、国内線の保安検査を受ける。保安検査は、国際線ターミナルとメイン・ビルディングの間にあるターミナル 3D を使ってくれば空いているはずだが、3C では国内線旅客と一緒にになるので、時間によっては保安検査を通り抜けるのに時間がかかる。乗り換え時間が 1 時間くらいだと、ゲートに着くのがぎ

りぎりになる。ただ、北京空港の発着便は遅れがちなので何とかセーフ、という結果になる。この時もそうだった。どうにか昆明行きの便に飛び乗った。昆明長水(クンミン・チャンスイ)国際空港では、雲南 CDC 李洪(リ・ホン)部長と莫冷鶴(モー・ランフウ)さんが待っていてくれた。威龍(ウェイロン)酒店にチェックインし、李さん、莫さん、莫さんのお嬢さんの 4 人で、近所のレストラン老房子(スーフォーユェン)造りのレストランだった(写真 1)。

I. 士林

8 月 7 日には李さん、莫さんと 3 人で、まず士林(トゥーリン)へ日帰りツアーに行くことになった。今回の運転手は衛東(ウェイドン)さんだ。午前 8:00 にホテルを出て、高速を北西に向かった。高速は、昆明市から楚雄彝族(ツーション・イーザー)自治州の北東部をかすめて四川省に向かう。いずれは北京と昆明を結ぼうという京昆高速道路(中国国家高速



図 1 2016 年、士林と昭通への行程

★が宿泊した昆明(8月7-10日)、昭通(11-13日)、彝良(14日)、昭通(15日)、昆明(16日)。(●)は経由地。



写真 1 昆明のレストラン老房子

G5)の一部だ¹⁾。昆明から南に関しては、既にバンコクまで高速道路がほぼ開通しており、24時間以内に南下できる²⁾。京昆高速 G5 は習近平主席が推進する一帯一路政策の大動脈になるに違いない³⁾。今回、われわれは北に向かい、昆明から武定(ウーディン)を通して元謀(ユエンモウ)で高速を降りた。昆明から約 200km の道のりだ。さらに一般道を少し北西に走って、土林に着いた。土林の入口のモニュメントには、Earth forest と英語表記されていた(写真 2)。入場料 100 元(約 1700 円)を払って中に入ると、土林はまさに“土の柱で出来た森”だった(写真 3, 4)。

土林を構成するのは礫や砂でできた土柱で、礫層が風雨により侵食された結果だという。同じ雲南省には、石灰岩でできた石林がある⁴⁾。当然ながら、「土林の土柱」は「石林の石柱」より弱いはずである。土の柱の表面を観察し、手で触れてみると、透明な樹脂のようなもので表面を固めて保護してあるようだった。

李さんと莫さん、衛さんと 4 人で土林の中を小一

時間散策した(写真 5)。天候は晴れ、気温約 30℃ の暑さだった。元謀の一带は盆地で標高約 1,100m と、約 1,900m の昆明と比較してかなり低い。天候が良く気温も上がり土地も肥沃なことから、この辺りは野菜の一大産地で、東南アジアにも輸出している。

土林の散策を終えると、長江が近くを流れているというので、まさに「長江の川岸」という、江辺(チアンビェン)まで行って見るようになった。日本で揚子江として知られる大河は、中国では全体を長江、上流部分を金沙江(チンシャーチアン)、下流部分を揚子江(ヤンツーチアン)と呼ぶ⁵⁾。筆者はまだ広大な揚子江を見たことがない。しかし、金沙江と呼ばれる上流域でも、すでに大河の風情だった(写真 6)。

元謀に戻り、高速に乗って武帝で降り、禄勸(ルーチェン)という町に行った。昆明市の北西を占める禄勸彝族苗族(ルーチェン・イーザー・ミャオズー)自治県の中心都市で、先に集まっていた雲南 CDC、昆明市第一人民医院などのメンバー約 10 人に加わっ



写真 2 土林(Earth forest)の入口



写真 4 土柱の近景



写真 3 展望台から見た土林の遠景



写真 5 土林を散策する莫さんと筆者



写真6 滔々とした金沙江の流れ

て、鶏と茸の鍋を囲んだ。夕食後約 100km 走って、威龍ホテルに戻った頃には 23 時をまわっていた。

8 月 8 日は終日ホテルで、持参した書類を読んだ。夕食は、李洪部長とこの日広州から到着した劉煥亮（リュウ・ファンリャン）中山大学教授、香格里拉（シャングリラ）に同行した徐聞（シュー・ウェン）部長と西双版纳（シーシュアンバンナー）に同行した肖義澤（シャオ・イーゾウ）部長も集まって会食した^{2, 5)}。

II. 雲南 CDC での講演

8 月 9 日午前 9 : 30 から雲南 CDC の講堂で約 1 時間講演した。「感染症全般について話をしてほしい」ということだったので、新興感染症に関する日本の対策について話した。16 年間雲南 CDC 所長を務めた陸林（ルー・リン）前所長が異動したばかりで、查舜（チャー・シュン）副所長が筆者を紹介してくれた（写真7）。筆者が英語で話し、劉教授がセンテンスごとに中国語訳した。雲南 CDC の講堂には大学院生を中心とした若手研究者約 50 人が集まった。同時に講演は、迪慶（ディーチン）CDC、西双版纳 CDC など、実際に訪問した各地の CDC を含む多数の地域 CDC に同時にインターネット配信された。

III. 昭通

8 月 10 日午前 8 時にホテルを出発し、昭通市（ジャオトン・シー：以下昭通）に向かった。今回の一行は李洪さん、肖義澤さん、劉煥亮さん、ドライバーの衛東さん、筆者の 5 人だった。昭通は、雲南省が



写真7 雲南 CDC での講演

北東方向に突き出た部分で四川省や貴州省と隣接している。市の直轄する昭陽区（ジャオヤン・チャー）や彝良県（イーリャン・シェン）、塩津県（イエンチン・シェン）など 11 の区や県から構成される人口約 550 万（2007 年）の地級市である。西側を金沙江が流れ、四川省との省境となっている。雲南省は全体的に北高南低の地勢であるが、昭通では西側が高く標高約 4,000 m に達し、最北部が最低地点で標高 300m 弱と、市内だけで約 4,000m の標高差がある⁶⁾。中心部の昭陽区は標高約 2,000m、おおよそ昆明と同じ標高である。昆明から昭通へは約 300km の行程だった。終盤の曲靖（チュチン）から昭通に入るあたり的高速道路は、橋脚の高さといい、駆け抜ける斜面の勾配の急峻さといい、瑞麗（ルイリ）に行った際に通った保山（バオシャン）西部の怒江大橋周辺的高速道路に引けを取らぬ雄大さであり、スリリングだった⁷⁾。昭通出身の李洪さんによると、高速道路ができるまでこのあたりの峠を越えるのに 2 日かかったそうだ。チェックインした江山大酒店（チアンジャン・ダーチョウディエン）から見下ろすと、昭通中心地の昭陽区はなかなかの都市だった（写真8）。

IV. 魯甸のバーベキュー

午後 5 時にホテルを出て、魯甸県（ルーディエン・シェン）まで戻った。魯甸では 2 年前（2014 年）の 8 月 3 日、マグニチュード 6.5 の大地震があり、死者は 600 人を超えた⁸⁾。その当日、筆者は李洪さんとともに雲南省西部の臨滄市滄源（リンツァン・シー・ツァンユエン）に居た⁹⁾。魯甸あたりでは、高速道路から見るだけでも、うち捨てられて躯体だけが残った民家がまだ散在していた。



写真 8 江山大酒店から見た紹興市昭陽区のパノラマ映像



写真 9 輪転がしに興じる李洪さん



写真 10 大縄を飛ぶ女性 2 人と入ろうとする 1 人

この日は、李洪さんの中学時代の同級生が 30 人ほど集まる同窓会だ。同級生といっても年齢の違う人もいらしい。李洪さんは 55 歳だから、中学時代というと文化大革命（1966 - 1976 年）の終了間際か。われわれもパーティーに参加した。会場には当時の遊戯道具があり、年配の男女が輪転がしや大縄飛びに興じていた（写真 9, 10）。輪転がしは、先を少し曲げた棒で引っかけた鉄の輪を転がすもので、日本では見たことがない。挑戦してみたが、バランスをうまく保たないとすぐに輪が外れてしまう、転がし続けようと頑張ると次第にスピードが上がって息が上がってしまうなど、結構コツが必要だった。

この夕のメインイベントはバーベキューだった。この日朝早くから 9 時間かけてオープンで丸焼きにしたというヒツジが運ばれてきた（写真 11）。丸焼きのチキンも 5 羽ぶら下がっていた。はるばる日本から来た客人ということで、第一刀を入れる光栄に浴した（写真 12）。後肢のつけ根からナイフを入れ、太腿の肉を削り落とす、そこが一番美味だという。实际たいへん美味しかった。待ち焦がれた皆が次々とナイフを入れ、ヒツジはあっという間に骨だけに



写真 11 ヒツジ丸ごと 1 匹と鶏 5 羽

なった（写真 13）。腹が満ちると次は白酒だ。小さなワイングラスに注がれた地元産の白酒を掲げて、女性を中心に 10 人ほどの人達がテーブルを周りながら歌い始めた。「あれー、これどこかで聴いた歌だ、知ってるぞ。そう、インターナショナルだ。」

18 歳で故郷からぽっと出てきて、すぐ学生ストライキで全学で授業がなくなった。つまり、「学生集会へも時々出かけた」（ユーミン）世代が、50 年



写真 12 ヒツジに一番ナイフを入れる筆者



写真 14 日中大合唱

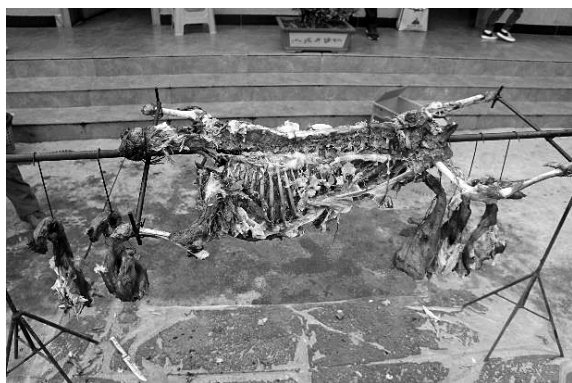


写真 13 強者どもが夢の跡



写真 15 昭陽区 CDC

前によく聞いたし、歌っていた歌だった。

「起て飢えたる者よ 今ぞ日は近し 醒めよ我が同胞
(はらから) 暁は来ぬ……ああインターナショナル
我らがもの いざ闘わんいざ 奮い立ていざ ああ
インターナショナル我らがもの」

筆者が歌い出したら、中国の人達がびっくりしていた。「日本人もインターナショナルを知っているのか？」てなところだろう。インターナショナルに続いて、「北国の春」や「さくらさくら」の大合唱となった(写真 14)。

V. 昭陽区 CDC

8月11日午前9:30にホテルを出て、昭陽区 CDC を訪問し、康家榮(カン・チャロン)昭陽区 CDC 書記から説明を受けた(写真 15)。昭陽区 CDC の管轄する地域の人口は約 100 万人だということだが、2015 年に約 1,500 件の HIV 陽性例があったという。2015 年の東京都の新規陽性者報告数は 435 件(HIV 感染者+エイズ患者)だったから、東京都の人口を約 1,000 万人とすると、昭陽区は東京より人口あた

り約 30 倍以上報告数が多いことになる。急速に HIV 感染者が増加しているようだ。CDC の役目は診断までで、診断が着けばその後のケアは病院に引き継がれる。筆者は臨床家なので、治療状況についての見学や議論ができないのは残念だった。

VI. 大山包

昭陽区 CDC の見学は短時間で終え、約 2 時間へアピンカープの続く一般道を登って、高原の牧草地に着いた。大山包(ダーシャンパオ:大きな山の頂)と呼ばれる地域だった。青海省で見た雄大な草原と比較すると小高い丘にすぎないという感じだったが、牛や羊が放牧され、牧童が少ない観光客の相手をしていた¹⁰⁾。草原を過ぎ、真新しい街区(タウンシップ)のレストランに入った。8月とはいえかなり寒かったが、レストランの標高が 3,100m と聞いて納得した。日本の山と比較すると、おおよそ穂高岳の山頂にあたる高さだ。

レストランでは、まずお茶が振る舞われた。苦荞茶(クーチャオチャー)という四川省でよく飲まれ

るお茶らしいが、雲南でもこの地域では一般的だという。苦荞茶は葉っぱではなく、実をたっぷりとお湯に沈めて頂く（写真 16 左）。日本では、「お茶」とはツバキ科の「チャノキ (*Camellia sinensis*)」の葉（茶葉）から抽出した飲料を指し、それ以外は「茶外茶」に分類されるらしいから、苦荞茶は茶外茶の一つということになる。名前とは異なりちっとも苦くはなく、少し香ばしい香りと風味で、筆者の好みだった。食事になると、白米とは別個に炊いた苦荞茶ご飯が出てきた。また、粉に引いたものを煎餅あるいはナンのように延ばしても食するようだ（写真 16 右）。飲んだり、食べたりするうちに、「苦荞茶は日本ではソバ茶（蕎麦茶）が一番近いのではないか」と思い当たった。後になって、「荞」は簡体字でその繁体字は「蕎」と知った。中国語を知る人にとっては、「苦荞茶＝ソバ茶」は当たり前なのかも知れない。信州で飲む日本のソバ茶の方がやや風味が強く美味しい、と言ったら身びいきすぎるだろうか。

ここからが今回の旅のハイライトだった。絶景は 2ヶ所あるらしいが、分岐点まで来ると、左の方は道

の状態が悪く通行止めになっていた。右手の道を進んだが、対面通行できない幅の道のほとんどを水たまりが占めていたり、対向車がやってきたり、プロの運転手でしか対応できないような石畳の道をそろそろと進んだ。とても駐車場とは呼べない狭い場所に車を止め、展望台までの細い道を歩いた。写真 17 は数枚の写真をパノラマにした画像である。写真を撮っている場所の感じが掴めるだろうか。展望台の先端は切り落とされていた。「清水の舞台」どころの話では無い。われわれの立っているところが標高 3,500m、舞台のすぐ左側に見える狭い平地は四川省で、標高 900 m、実に 2,600m の断崖絶壁が目前にある。目を上げると、遠景に高山とそれを被う雲海が見える。断崖の途中に、張りついたようにいくつか家屋が見える。康さんは「あの辺りまでワクチンを打ちに行った」と言った。舞台の右端から見下ろすと、切り立った崖の向こうに“細い”河が見える（写真 18）。あれが雲南と四川の省境になっている金沙江だ。展望台の先端に柵も何も無いのが不思議だったが、実際われわれが立っている所は一段上



写真 16 苦荞茶と苦荞茶ご飯



写真 17 大山包から四川省を望む（パノラマ映像）

の舞台上、安全柵で仕切られていた(写真 19)。高山の天気で雲の動きは速く、間もなく展望台も霧とも雲とも言えぬ霧の中に入ってしまった。

大山包を出て昭陽区に戻り、そのまま昭陽区 CDC の夕食会に出席した。上部組織である昭通市 CDC の所長やエイズ担当の女性副所長も来てくれていた(写真 20)。大きな円卓を囲み白酒を飲んで、宴はすぐたけなわになる。康さんと劉さんが余興の歌を始めた。中国での宴席では、入り口に面と向かう席



写真 18 展望台の右端から見下ろした断崖絶壁と遙か下の金沙江



写真 19 展望台に立つ筆者と同行者



写真 20 昭陽区 CDC 主催の夕食会

が主賓の席だという。写真を撮った筆者は写真 20 の右手前に見える席だったから、主賓席を貰っていたことになる。

Ⅶ. 貴州省草海

8 月 12 日は午前 9 時にホテルを出て、日帰りで貴州省の威寧彝族回族苗族自治县(ウェイニン・イーザー・フィザー・ミャオザー・ツーチャーシェン)に行った。中心地の威寧まで昭通から約 80km というが、山道のあちこちで道路が崖崩れで寸断されていた為、片道約 4 時間を要し、着いたのは 13 時頃だった。威寧 CDC 所長が同席した昼食会の後、草海(ツァオハイ)という湖でボートに乗った(写真 21, 22)。水は綺麗で、水中には名前のごとく水草が茂っていた。船頭が竿でボートを進める。ここでは水かけは無かったが、康さんが隣の見知らぬ旅行者達に声をかけ、歌を歌え、「北国の春」を歌えと強要した。帰路に夕食をとり、ホテルに帰った頃には 22 時をまわっていた。



写真 21 草海でのボート周遊



写真 22 草海湖畔でドライバーの衛東さんと筆者

Ⅷ. 彝良 CDC と小草壩

8月13日午前9時にホテルを出発し、北東に位置する彝良県（イーリャン・シェン）に向かった。途中は山道で、降雨であちこち崖崩れが発生しており、しばしば車を降りて落石を確認しなければならなかった。雲南では道路が寸断されるのは日常茶飯事で、通行する車を当て込んだ簡易な露店が並んでいた（写真23左）。商品は、その日早朝地域の森から採集してきた多彩な野生の茸だ（写真23右）。李洪さんと康さんが見繕って、レジ袋2つに多数の茸を買い込んだ。

さらに進むと、中学生程度の女子2人がブロックを2、3個積んだだけの店を出し、一種類の茸だけ販売していた（写真24）。鶏頭（チートウ）というたいへん珍しく、美味しい茸らしい。李洪さん達は、子供達が売っていることも手伝って、一束に300元ほど渡していた。

霧が深くなり、時折小雨も降ってきた。彝良街区

に入り、洛澤河（ローツウフー）の傍の彝良県疾病預防控制中心（彝良 CDC）を見学した（写真25）。彝良 CDC の前は大きく深い水たまりになっており、車を CDC 内に入れることができないほどだった。このあたりはかなり降水量が多いのだろう。

彝良 CDC の保冷庫には種々のワクチンが保管されていた。掲示板の自費ワクチンの価格を見ると、インフルエンザウイルスワクチン 60 元（約 1,000 円）、水痘ワクチン 130 元（約 2,200 円）、狂犬病ワクチン 284 元（約 4,800 円）、B 型肝炎ワクチン 43 元（約 730 円）～ 305 元（約 5,000 円）と様々だった（写真26）。

彝良 CDC の見学を手短に終えたと、彝良の北東に位置し滝や紅葉など風光明媚で知られる小草壩（シャオタオパー）に行くことになった。文字通り山奥の景勝地に来ても必ず通りを囲んだ小さな町並みが設えてあり、小ぶりのレストランもあった。彝良への道すがら手に入れた茸を持ち込んで、われわれも手伝いながら綺麗に洗った。店の主人は、新しく地鶏を一羽絞めて、羽を筆っていた。鶏一羽を丸ごと使う料理は雲南の定番だが、行く先々での地鶏



写真23 彝良に向かう途中の露店と茸



写真24 高価な茸（鶏頭）



写真25 彝良 CDC の入口

自費（二类）疫苗价格表

疫苗名称	规格	生产厂家	接种剂次	接种年龄	接种部位	接种说明
狂犬病疫苗	0.5ml/支	杭州兴生生物	240	暴露后预防	三角肌	暴露后预防接种，暴露后0、3、7、14、28天各接种1剂，共5剂。暴露前预防接种，0、1、3、7、14、28天各接种1剂，共6剂。
狂犬病免疫球蛋白	200IU/支	山东齐鲁	210	暴露后预防	三角肌	暴露后预防接种，暴露后0天接种1剂，暴露后3天接种1剂，暴露后7天接种1剂，暴露后14天接种1剂，暴露后28天接种1剂，共5剂。
破伤风疫苗	0.5ml/支	长春长生生物	130	暴露后预防	三角肌	暴露后预防接种，暴露后0、3、7、14、28天各接种1剂，共5剂。暴露前预防接种，0、1、3、7、14、28天各接种1剂，共6剂。
乙型肝炎疫苗	10μg/支	深圳康泰	43	出生时、1月龄、6月龄、12月龄、24月龄、48月龄	三角肌	出生时接种1剂，1月龄接种1剂，6月龄接种1剂，12月龄接种1剂，24月龄接种1剂，48月龄接种1剂，共6剂。
乙型肝炎疫苗	60μg/支	深圳康泰	300	出生时、1月龄、6月龄、12月龄、24月龄、48月龄	三角肌	出生时接种1剂，1月龄接种1剂，6月龄接种1剂，12月龄接种1剂，24月龄接种1剂，48月龄接种1剂，共6剂。
乙型肝炎疫苗	1000IU/支	四川美大	110	出生时、1月龄、6月龄、12月龄、24月龄、48月龄	三角肌	出生时接种1剂，1月龄接种1剂，6月龄接种1剂，12月龄接种1剂，24月龄接种1剂，48月龄接种1剂，共6剂。
乙型肝炎疫苗	2000IU/支	深圳康泰	160	出生时、1月龄、6月龄、12月龄、24月龄、48月龄	三角肌	出生时接种1剂，1月龄接种1剂，6月龄接种1剂，12月龄接种1剂，24月龄接种1剂，48月龄接种1剂，共6剂。
H1N1疫苗	0.5ml/支	兰州生物	72.5	6-11岁儿童	三角肌	6-11岁儿童接种1剂，共1剂。
23价肺炎疫苗	0.5ml/支	康泰生物	170	65岁以上老人	三角肌	65岁以上老人接种1剂，共1剂。
成人流感疫苗	0.5ml/支	长春长生生物	58	18岁以上成人	三角肌	18岁以上成人接种1剂，共1剂。
儿童流感疫苗	0.25ml/支	长春长生生物	61	3-11岁儿童	三角肌	3-11岁儿童接种1剂，共1剂。

写真 26 ワクチン価格表

が異なるからか、飽きることがない。持ってきた茸は、鶏料理、野菜炒め（写真 27 左）、スープ（写真 27 右）全てに利用された。小草壩は、野生のアジサイが咲き乱れるなど瀟洒な所だった。夕刻彝良街区に戻り、洛澤河大酒店にチェックインした後、彝良 CDC 所長や康さんの奥さん達と会食した。



写真 27 鶏頭など茸入り野菜炒めと茸と鶏のスープ

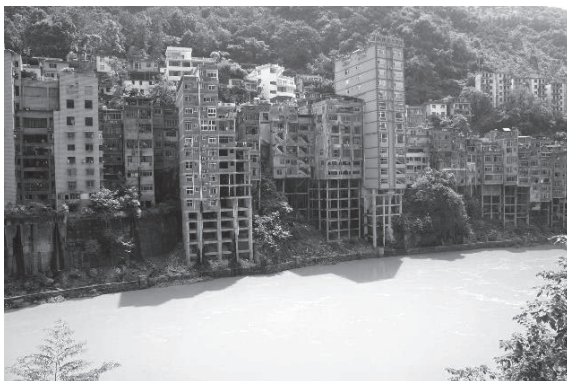


写真 28 塩津県の古い居住区



写真 29 新しい塩津県街区と県政府庁舎

Ⅸ. 塩津県 CDC

8月14日午前8:30に集まって、洛澤河沿いに塩津県（イエンツインシェ）に向かって北上した。洛澤河は長江の支流で、四川省との省境を流れる金沙江とは別途、昭通内流れて長江に注ぐようだ。この地域は再開発が活発なようで、地図には無いトンネルを通ったり、道路自体も随分新しくなっているようだった。山を削った洛澤河は峡谷を形成し、その崖に河岸から足場を延ばして高床式にしたビルが張りついている（写真 28）。ビルは古く、一部を除き窓も取り払われて人の住む気配がない。人々は古くなった街を捨て、より北側（下流）に塩津の居住区や県政府庁舎を移動させたいらしい（写真 29）。塩津県 CDC を訪問し、所長、副所長と昼食をともにした後、重慶と昆明を結ぶ渝昆高速 G85（ユークン・ガオスー）に乗って、江山大酒店に再度チェックインした。低木に被われた岩山や、崖の頂上からほぼ垂直に落ちる瀑布、峡谷を形成しつつ流れる急流な

ど、地殻変動の大きいこのあたりを抜ける高速周囲は雄大で、雲南省の中でも最も素晴らしい景観だと思った(写真30)。

8月15日午前8:30に集合し、昭通から高速を一気に南下した。昆明長水国際空港北の彝族レストランで莫さんと待ち合わせて、6人で会食した(写真31左)。食材は茸と肉と野菜で、変わった形の鍋料理だった(写真31右)。食後、莫さんが劉さんを空港に送り、筆者は昆明市内に戻って、雲南CDCに近い新紀元大酒店にチェックインした。衛東さんによれば、今回の走行距離は、2,800kmということだった。衛東さんも安心して乗っていただける素晴らしいドライバーだった。

8月16日帰国の途についた。経由地の北京で出国手続きを終え、保安検査を通過したところで、伊豆諸島近海上の台風7号のため羽田便が欠航となった。バスでエア・チャイナが用意したホテルに移動したが、これが酷かった。部屋は前の客が出たままに散らかっていて、ハウスキーピングを呼んだが、

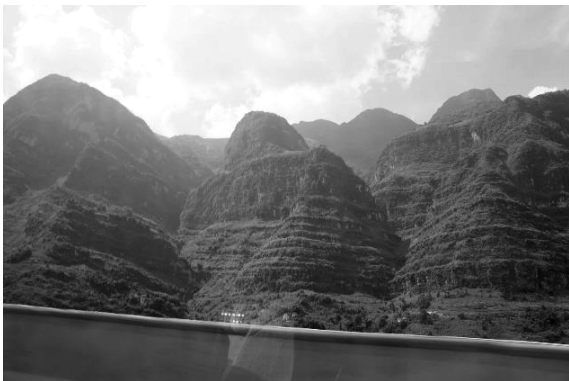


写真30 渝昆高速周囲の景色

シートを交換するわけでもなく、あっという間に行ってしまった。広いレストランに並べられた食事はほとんど残っておらず、しかも冷えていた。早朝便が用意されていたので、午前2:30に起きて北京空港に戻って、ようやく帰国した。

文 献

- 1) 京昆高速道路。ウィキペディア。2019年6月16日閲覧。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/京昆高速道路>。
- 2) 岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情12 雲南の旅 その3 西双版纳(シーシュアンバンナー)_2012年」。モダンメディア 63(6): 13-18, 2017。
- 3) 一帯一路。ウィキペディア。2019年6月16日閲覧。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/一帯一路>。
- 4) 岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情16 雲南の旅 その6 河口・普者黑(フーコウ・ブジャフエイ)_2015年」。モダンメディア 64(12): 11-19, 2018。
- 5) 岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情11 雲南の旅 その2 シャングリラ(香格里拉)_2012年」。モダンメディア 63(5): 21-27, 2017。
- 6) 昭通市。2019年6月15日閲覧。
<http://www.chinapanoramatour.com/yun-nan/23.shtml>
- 7) 岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情14 雲南の旅 その4 瑞麗(レイリ)_2014年」。モダンメディア 63(11): 19-26, 2017。
- 8) 魯甸地震。ウィキペディア。2019年6月15日閲覧。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/魯甸地震>。
- 9) 岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情15 雲南の旅 その5 滄源(ツァンユェン)_2014年」。モダンメディア 64(11): 13-21, 2018。
- 10) 岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情5 H5N1 高病原性鳥インフルエンザと青海湖」。モダンメディア 62(6): 23-27, 2016。
- 11) 茶外茶。ウィキペディア。2019年6月16日閲覧。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/茶外茶>。



写真31 彝族レストランの鍋料理